

「住みたいまち、住み続けたいまち、次世代に 継承したいまち」の実現に向け 決意も新たに

益城町議会議長 稲田 忠則

新年、明けましておめでとうござい
ます。町民の皆さまには、日頃から町議会
に對しまして、温かいご理解と絶大な
ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

町議会におきましては、昨年4月の改
選により新体制となり、新たなスタート
を切りました。議会の使命である「町の
具体的な政策の最終決定」と「行財政運営
の批判と監視」を達成できるよう懸命に
努力することが、議員の職責であると
思っております。町民の皆さまと対話を
重ね、その声をくみ取りながら、熊本地
震からの一日も早い復旧・復興の実現に
向け努力してまいります。

昨年もまた、全国各地で台風や大雨な
どによる大規模な災害が、連続して発生
しました。かつては10年に一度の規模と
いわれた大型の自然災害が、近年ではほ
ぼ毎年のように発生しております。

議会といたしましても、平成30年7月
の西日本豪雨災害により甚大な被害を受
けました、岡山県倉敷市の復旧状況の確
認と併せ、自主防災組織の設立に向けた
取り組みなどの視察を行いました。

近年、各種災害が激甚化する中、被害
を軽減するためには、行政による「公助」
をはじめ、町民一人一人が自ら取り組む
べき「自助」、地域ぐるみで相互に助け合
う「共助」を組み合わせ、「自らの命は自
らを守る」という防災意識を持つことが
重要となります。風水害や土砂災害への
備えとして、災害対応の知識を広く習得
し、災害対応能力を向上させるため、11

月に開催された「防災
リーダー養成講座 in
ましき」に3人の議員も
参加し、防災士の資格
を取得しております。

今後も災害発生時のみ
ならず、平時においても議
会が取り組むべき災害対策や議

会の役割について研鑽を積み、皆さま
と共に防災力の向上に努めてまいります。

さて、町並みに目を向けますと、被災
した道路や水路の復旧とともに、解体さ
れ更地となっていた所にも新しい住宅が

次々と建ち始めました。県道熊本高森線
では4車線化に向けた工事が随所で進め
られ、大型の重機がフル稼働しておりま

す。また、木山地区の土地画整理事業
におきましては、11月に役場跡地で着工
式も行われるなど、復興の足音も少しづ

つ確実に聞こえてきています。

明るいニュースとしましては、ラグ
ビーワールドカップ2019で日本代表

が、初の決勝トーナメントに進出する快
挙を成し遂げるなど、日本中を感動の渦

に巻き込みました。また、年末には日本
では初めてとなる女子ハンドボール世界

選手権大会が、熊本県内の5会場で開催
され、熱戦が繰り広げられました。

新年に目を向けますと、東京2020
オリンピックが7月24日、国立競技場

で開幕します。聖火リレーも3月26日に
福島県をスタートし、聖火は全国各地の

世界遺産や震災からの復興の象徴となる



場所を巡ります。益城町におきましても、
5月7日に益城町役場建設予定地をス
タート地点として聖火が走ります。

また、昨年復旧が完了しました陸上競
技場や町民グラウンドに続き、7月には
総合体育館も利用できるようになります。
スポーツに関する各種イベントや町民の
皆さまの健康づくりの場として活用して
いただき、スポーツを通じて町の復興に
大きな弾みをつけることができると確信
しています。

私ども議会といたしましては、熊本地
震からの復旧・復興事業のさらなる推進
を、国や県に対し引き続き要望すると
もに、まちの将来像である「住みたいま
ち、住み続けたいまち、次世代に継承し
たいまち」の実現に向け、今後さらに創
意工夫を重ね、町民皆さま方のご期待に
応えるよう決意を新たにしております。
どうか本年も変わらぬご支援・ご協力を
賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。
して新年のごあいさつといたします。